

## 調査・研究報告の概要

UIFA JAPON 理事会 担当：国際女性建築家のキャリア形成とライフスタイル研究会  
(松川淳子・中島明子・稲垣弘子・宮本伸子・森田美紀・石川彌榮子・小池和子)

本研究は、UIFA（国際女性建築家会議）会員を対象に、世界各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイルの実態を、アンケート調査により把握し、比較分析を行ない、並行して、本実態調査の背景となる諸データ・文献を蒐集分析、若干の現地調査を実施したものである。

「第Ⅰ部 各国の女性建築技術者の背景及び動向」は、アンケート調査の背景を論じたものである。先進諸国の中で、日本は男女共同参画の点で相対的に低位にあり、労働力率曲線のM字型構造は基本的には変わらず、韓国も同様である。アジア諸国は女性の就業率がヨーロッパに比べて全般的に低いが、管理職に占める女性割合はフィリピン、シンガポール等では高く、日本と韓国が非常に低い。

女性建築技術者に関するジェンダー統計について、ヨーロッパ各国を仮説的に分類すると以下の通り。

- A. 女性割合の高い国：東欧旧社会主義国、社会民主主義政党の影響の強い北欧及び南欧
- B. 女性割合が比較的高い国：先進諸国等：フランス、ドイツ、イタリア
- C. 20%以下：イギリスを含むその他の国

先進諸国でもイギリス、アメリカでは、建築技術者における女性割合はそれほど多くなく、日本と共通の課題を抱えていることが推察できる。しかし、アメリカ建築家協会（AIA）、王立イギリス建築家協会（RIBA）の双方とも、協会内に、ダイバーシティ関連組織を設け、積極的に女性建築家の活躍できる環境整備を行っている。また、女性建築家の割合の高い北欧諸国では、介護負担が殆どないことは日本との大きな違いであるが、出産・育児については公的サービスがあるものの困難があるとしていて、建築業務自体にも問題があるといえよう。

また社会主義中国の上海市についてみると女性割合が高いが、家事や保育所等を補完する親の存在が大きい。アジア諸国その他でも同じ傾向にあるが次第に変化している段階である。

日本では、建築関連組織、公共部門の建築技術職、大学教員等で他の国と比較して女性が非常に少ない。但し日本建築学会に男女共同参画推進委員会が設置され、また建築系大学に女子学生が急激に増えており、近未来は先進諸国並みになることが期待される。

「第Ⅱ部 各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル」はアンケート調査結果である。

調査は日本会員を対象とした予備調査（2014年12月～15年1月）を踏まえ、英語版と日本語版のアンケート票を作成し、海外会員対象と日本会員対象のアンケート調査を実施した。

### 海外会員対象アンケート：

①UIFA第18回世界大会（於米国2015年7月30日～8月4日）での実施…配布；73人、回収；37人（10ヵ国）、回収率；50.68%、②電子メールによる実施（2015年12月10日～2016年1月10日）…配布；124人（37ヵ国）、回収；21人（10ヵ国）、回収率；16.93%。

日本会員対象アンケート：UIFA JAPON会員（2015年11月3日～25日）：配布；73人、回収；51人、回収率；69.86%。

総数：配布；270人、回収；109人、回収率；40.37%。

国別回答数にばらつきが大きいのが、日本と海外を比較すると以下の点で特徴がある。

- (1) **プロフィール**…回答者の平均年齢は58.9歳（日本66.2歳、海外52.4歳）1950年代生まれが最も多い。単身または核家族が多く、現在子どもと同居していない家族が6割。デザイン系事務所勤務者が5割。構造・設備事務所勤務者が海外では15.5%、日本は2%である。
- (2) **進路選択**…家族に建築関係者がいるかどうかについては、約半数が無。海外では母親と二世代にわたる場合があるが日本にはない。建築関係等の領域を選んだ動機は、「仕事の魅力」が6割強。家族や先生に「勧められた」人の割合は海外の方が多。
- (3) **仕事**…「自分にとって大切な仕事」は海外では若い時期の規模の大きい仕事。日本は自分自身の頑張りや、他人から評価されたことが「大切な仕事」に繋がっている。「不愉快な思い出」は、日本では7割弱あり多。その半数は差別や不平等などで仕事上のトラブルもある。

- (4) 家事・子育て・介護…家事の担当者は「自分」が多いが、海外の方が夫婦で行う割合が高い。「家事委託業者」が日本では0だが、海外では少数だがある。子育ては保育園利用が7割。海外では多様な形態の保育園が活用されている。仕事と子育ての両立では8割強が両立。「職場を変えて対応した」は日本とアジアでそれぞれ1割ある。介護については、高齢者施設の利用は日本が多い。子育てや介護が仕事に及ぼす影響については、日本の方が「プラス」の回答が多い。
- (5) 建築分野の仕事を選択したことの自己評価…9割以上が「良かった」と思っている。「とても良かった」と答えているのは日本7割強。海外5割。
- (6) 今後の仕事や活動…半数以上が「今の仕事を継続」。次に「社会貢献」。「これまでと違った仕事をしたい」人は海外で3割。日本はごく少ない。

報告書の構成は以下の通りである。

## 「各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル」

序

### 第I部 各国の女性建築技術者の背景と動向

1. 日本の「建築技術者」における女性技術者のジェンダー統計を探る
  - 1) 日本の女性建築技術者はどこまで進出しているか。
  - 2) 建設業5団体による女性技術者・技能者の実態
2. 日本及び各国の女性の就業、女性関連施策
  - 1) 日本における女性の就業に関するデータ
  - 2) 男女共同参画に関する国際的指数
  - 3) 欧州連合（EU）のジェンダー平等施策
  - 4) 各国の女性の就業状況
  - 5) 東南アジア諸国連合（ASEAN）の女性労働
  - 6) 各国のワーク・ライフ・バランス施策
3. 欧州・米国・アジア諸国の女性建築技術者
  - 1) 欧州の女性建築家
  - 2) 米国の女性建築家と建築家協会（AIA）におけるダイバーシティ
  - 3) アジア諸国の女性建築技術者
4. 各国の建築士制度等に関する資格要件

### 第I部 小結

### 第II部 各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル

1. 調査の概要
  - 1) アンケートの目的
  - 2) アンケートの対象者
  - 3) アンケートの実施方法と実施時期
  - 4) アンケートの配布枚数、回収数、回収率
  - 5) 予備調査について
2. 予備調査
  - 1) 調査の目的と実施時期、回収率
  - 2) プロフィール—42人の「いま」
  - 3) 進路選択—42人の「モチベーション」
  - 4) 仕事のいまとこれまで—42人の「誇り」
  - 5) 仕事の思い出、子育てや介護の苦労とその克服—42人の「経験」
  - 6) 人生の「収支」とこれから—42人の「これから」
3. UIFA 会員による「各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル」
  - 1) 調査結果の全体像
  - 2) 年代別結果
  - 3) エリア別結果
  - 4) 「建築関連領域」の仕事選択と家族関係

まとめ

- 1) 回答者のプロフィール
- 2) 建築関連領域を選んだ背景
- 3) 仕事について
- 4) 家事・子育て・介護について
- 5) 「建築関連領域」の仕事を選択したことについて
- 6) 今後の仕事や活動について
- 7) 日本と海外の差異

### 第II部 小結